

おはようございます！私の名前は、仁といいます。本名は韓国名ですが、日本で生まれ育った在日韓国人です。この教会の長老の一人として、主に日本語のミニストリーを導いています。このクロスウェイ教会では、2011年の秋から奉仕しています。妻の訓子と4人の子どもがいますが、実は今日は私たち夫婦の結婚記念日です。12年となります。神様は、私たちのこれまでの歩みを計り知れない愛と恵みをもって導いて下さいました。もちろん、困難がなかったわけではなく、結婚生活が危機的な状態に陥りそうになったこともあります。でも、主のあわれみと恵みによって、今日まで支えられてきました。今は、これまで以上に互いに夫婦であること、そして、そこにある一致を心から喜んでいきます（少なくとも私の側としては…）。

私たちと主イエスとの関係においても、同じことがいえると思います。主とともに歩む中には、主への信仰が試されることがあります。主に聴き従うことが困難に思えることがあるでしょう。でも、主がすばらしいお方であり、計り知れない愛と忍耐をもって導き続けて下さるゆえに、私たちはこの方と一つにされていることのすばらしさを少しずつ味わい知っていくことができるのです。この朝、開くみことばも、その主との関係が前提とされています。とても有名な箇所ですが、お読みます。

第一テサ 5:16-18 節「いつも喜んでいなさい。17 絶えず祈りなさい。18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」。祈りましょう！「愛する天のお父様。あなたのすばらしいお名前をほめたたえます！今私たちは、あなたのみことばに聴こうとしています。どうぞ主自身がお語り下さい。御名によって祈ります」。

いつも喜ぶこと、絶えず祈ること、すべての事について感謝すること、これが神様をして、私たちにもっておられる御心です。父なる神様は、あなたがいつも喜び、絶えず祈り、すべての事の中で感謝することを望んでおられるのです。でも、この手紙の著者パウロは、「そうであったら良いのに」といった言い方ではなく、「喜んでいなさい。祈りなさい。感謝しなさい」と命じています。

いかがですか？これらのことは、そう命じられて、するものですか？それは強いられるものではなく、自発的なものではないではないでしょうか？もし私たちがこのことを義務と捉え、行わなければ、何か罰を受けるようなものとして理解するなら、それこそ主の御心は満たされることがありません。なぜなら、いつも喜んでいない、絶えず祈っていない、すべての事について感謝していない、という事実が、私たちの心を主から遠ざけるからです。

18 節の後半をもう一度見ます。「これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです」。この「キリスト・イエスにあって」がとても重要です。なぜなら、これがあって初めて、私たちはいつも喜び、絶えず祈り、すべての事について感謝することができるからです。言い方を変えると、私たちがいつも喜び、絶えず祈り、すべての事について感謝できるのは、私たちがキリスト・イエスのうちにある者、つまり、その恵みによって主と一つにされているからです。ここをミスしてはいけません。私たちの喜び、祈り、感謝の理由、それは主イエスです。それゆえに、これらのことは、主からの特権と言えるのです。

どうぞ、あなた自身が、いつも喜び、絶えず祈り、すべての事について感謝している様子を思い浮かべて見て下さい。たまに喜ぶのではなく、いつも喜んでる姿を、問題があった時だけでなく、絶えず祈っている姿を、物事が自分の願った通りになった時だけでなく、どのような境遇の中にあっても感謝している姿をイメージして下さい。それはとてもすばらしいことではないですか？それを災いだという人はいますか？

では、どうですか？それが、あなたの今の現実ですか？いつも喜び、絶えず祈り、すべての事について感謝することは、「あなた」という人を表していますか？もしそうでないとしたら、その理由は何ですか？何が、あなたを神の御心に沿わない者としている原因でしょうか？15 節を見て下さい。「だれも悪をもって悪に報いられないように気をつけ」とあります。神様は「信じたら、すべて問題はなくなる」とはおっしゃっていません。つまり、私たちのまわりには、問題、悪が存在しているのです。その悪のゆえに、いつも喜ぶこと、絶えず祈ること、すべての事について感謝することが困難である、と言えると思います。

また、その悪は、必ずしも私たちの外側だけに存在するものではなく、内側にも存在しています。つまり、罪のことです。主は言われました。**マル7:20-23**「人から出るもの、これが、人を汚すのです。21 内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、22 姦淫、食欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、23 これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです」。

ここに神様が、ご自分の御心としてのこれらのことを「キリスト・イエスにあって」望んでおられる、と言われる理由があります。つまり、主イエス抜きには、それは不可能なことです。でも、キリストのうちにあるならば、私たちは進んでそこに向かうようになります。なぜなら、主イエスは、この世のあらゆる悪に、もっといって、悪魔に勝利されたからです。どのようにしてですか？十字架にかかり、その身代わりの死と復活の力をもって、人類の敵である罪と滅びの問題を解決して下さることによってです。

ですから、それが外側のこの世の悪の問題であれ、内側の罪の問題であれ、私たちとしては、それらに直面する時、決して喜ぶことはできません。悪、それ自体を喜ぶべきではないからです。でも、その悪のただ中であっても、悪に勝利された主イエスのゆえに、またこの方と一つにされているゆえに、私たちは喜ぶことができる、いつも喜ぶことができるのです。私たちが悪から救い出して下さった主が、喜びの理由だからです。

では、主にあつていつも喜ぶなら、悪の存在はなくなりますか？問題は、すべて解決するのでしょうか？いいえ。私たちが主にあつて喜ぶ時、その救いを喜びとする時、悪魔の攻撃は激しさを増します。悪魔は、私たちが自分と同じ目、つまり、滅びに至らすことを願っているからです。私たちが、絶えなる祈りへと導かれている理由はここにあります。祈りとは、私たちが父なる神様に結び付けてくれるものです。それは、この方との生きた交わり、会話です。父なる神様は、祈りを通して近づく者に、ご自分もまた近づいて下さいます。それを通して、御心を悟らせ、それを行う力を与えて下さるためです。

皆さんは、十字架にかかれる前夜、主がゲッセマネの園で祈られたことを覚えておられるでしょう。主はその際、弟子たちに、「わたしは、悲しみのあまり死ぬほどです」と言われ、また血のような汗を流しながら、切に祈られました。「わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください」と。そのように祈るご自身の御子に対して、父なる神様は御使いを通して彼を力づけられますが、**ルカ 22:44**を見ると、その後、「イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。…」と記されています。天からの力添えを受けることで、主はいよいよ祈りを通して父に近づかれたのです。

そのような切なる祈り、またそれを通して上よりの力を受けることがあつて、その後の主の苦難と十字架の死があります。主イエスの十字架は、神様の救いの計画を知らない人にとっては敗北に思えることでしょう。でも、知る者には、それは悪に対する勝利以外の何ものでもないのです。なぜなら主は、聖書に記されていた通り、また弟子たちに語っておられた通り、十字架の死後、三日目に死人の中からよみがえられたからです。そして、多くの弟子たちに現れた後、天に昇り、父なる神様の右の座に着かれることで、ご自分を信じるすべて者に聖霊を注ぎ、とりなしをして下さっています。それは彼のうちにある私たちが、この世のあらゆる悪や困難の中でも、祈りを通して主から力を受けることで、福音を語り続け、善をもって悪に報いるためです。

ロマ 8:28「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」。パウロは、このことを「知っている」と言いました。悪蔓延るこの世にあつても、主イエスをいつも喜びの理由とし、絶えず祈りを通して主に近づく者に、主はこのことをわからせて下さる、「私たちは知っている」と言わせて下さるのです。

私たちには先のことはわかりません。それゆえに、置かれている境遇によっては正直感謝できない、ということもあるでしょう。でも、愛する御子の十字架の死さえも、私たち罪人を救済するための救いのわざとされた神様は、ご自分を愛する者、そのご計画に従って召し出された者のためには、すべてのことを働かせて益とされるのです。私たちは、主イエスとその死と復活をもって神様の愛を明らかにして下さったゆえに、神様を信頼して良いのです。神様は、どのような中でも決してあなたを離れず、捨てることはないからです。それゆえに、たとえ自分の置かれた境遇が、望まないものであったとしても、この主への信頼のゆえに、感謝すべきです。

最後に、19-20 節を見ます。「御霊を消してはなりません。20 預言をないがしろにははいけません」。主は、ご自身の御霊とご自身を証するものとしての預言のみことばをもって、私たちにこれらのことを思い起こさせて下さいます。今日あなたは、自分のうちに主の御霊が与えられていることを信じ、この方により頼んで歩んでおられますか？また、日々みことばに聴くことで、主の御声によって導かれているのでしょうか？主イエスこそ、この世の悪の中にあっても私たちがいつも喜べる理由、絶えず祈りをもって神様に近づける理由、どのような境遇の中でも感謝できる理由です。キリスト・イエスのうちにある者には、このような特権が、恵みとして与えられています。主をほめたたえようではありませんか。

祈りましょう。「愛する天のお父様。この世の悪、罪と滅びから私たちを救うために、御子イエスを遣わして下さり、ありがとうございます。主の十字架の苦しみとその死があつてこそ、私たちはいつも喜び、絶えず祈り、すべての事について感謝することができます。あなたこそ、私たちの救い、また唯一の望みです。どうか私たちをさらに御子イエスに似た者へと造り変えて下さい。主の御名によって祈ります」。